

平成24年度 第1回 海岸工学委員会 議事録

開催日時：平成24年6月18日（月） 14:00～15:00

開催場所：土木学会2階 講堂（東京都新宿区四谷1丁目 外濠公園内）

出席者：以下の38名の委員長，幹事長，委員，委員兼幹事

間瀬委員長、後藤幹事長

青木、宇野（荒木委員の代理）、池谷、伊藤、大山、岡安、黒岩、黒木、上月、田中（佐々木委員の代理）、猿渡、津田、西田、鳥居（藤田委員の代理）、松本、三嶋、水谷、森、八木、山本、横木の各委員

小笠原、柿沼、栗山、佐藤、重松、加藤（諏訪委員兼幹事の代理）、高木、武若、丹治、藤間、松山、陸田、森屋、山城、渡部の各委員兼幹事

資料：

- ・平成24年度第一回海岸工学委員会の議事（資料1）
- ・PowerPoint スライド（資料2）
- ・第58回海岸工学講演会（盛岡）収支決算の報告（資料3）

■議事前報告事項

1. 委員会兼幹事交代（後藤幹事長）

下記の委員交代の報告があった。

- ・水工学委員会派遣委員：榊原委員→松山委員
- ・土木学会論文集（B部門）合同編集小委員会：田島委員→武若委員
- ・研究企画委員会委員→灘岡前委員長（前任者：名大・辻本哲郎教授）

2. 委員会活動度評価要領の見直し、JSCE2010 自己評価簡素化の提案（後藤幹事長）

賛成にて回答済みとの報告があった。

3. 調査研究拡充支援金の算定方法の見直し（後藤幹事長）

当委員会の場合、28万円程度の減額の案が出されたが、執行部で協議し、反対の意見書を提出した。その結果、新方式が提示され、従来の拡充金と同程度の額となった。本方式は、平成26年度から適用するとの報告があった。

4. 平成24年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（後藤幹事長）

「海象予測システム技術の振興」受賞（間瀬、安田、森）との報告があった。

5. 第58回海岸工学講演会（小笠原委員兼幹事）

資料3を用いて、第58回海岸工学講演会の来場者数、会計などの報告があった。

6. 土木学会100周年記念行事（間瀬委員長）

- ・「津波・高潮の水位標識の設置」および「沿岸防災息の普及促進」について提案されるとの報告があった。具体的には、ハザードマップに基づくサインを地元と協力して設置する活動。市民見学会などを行い、防災意識を高め、さらにサイエンスコミュニケーターを育てることがなされる。

■審議・報告事項

1. 第59回海岸工学講演会応募論文審査についての報告（青木小委員長）

- ・登録論文数：407件、昨年368編から40編増。 査読者割当：約18.21編／人。
- ・通常号からの発表希望 3編（当該合計11編中）
- ・審査手順：査読者5名、1人6点、昨年と同様、専門性をなるべく考慮して、査読者を割り当て、各査読者の平均点が3.5～4.0点程度となるように調整依頼した。
- ・評価点18点以上の論文 260編（昨年245編）、評価点17点の論文（55編）から42編を採択した。
- ・合計、第1段階審査通過論文数は302編（評価点18点以上260編、17点が42編）、採択率は約74%
- ・査読者ごとの平均点は3.70点（昨年3.72点）
- ・本原稿の執筆辞退が2件あり、この著者には編集小委員長から嚴重注意がなされた。
- ・第2段階審査論文数300編（302編-2編）、内A判定84編、B判定161編、C判定55編であった。
- ・国際セッションには17編が採択された。
- ・第2段階審査後の日程、提出物、提出方法についての説明がなされた。
- ・J-Stage 関連について、原稿提出明細書の説明がなされた。

2. 論文の諸課題についての審議

①アブストラクト査読について

- ・アブストラクト査読でもコメント入力を求めることに対しては、企画構想WGからも検討するように指摘がなされている。ただし、全てのアブストラクトに関してコメント入力するには現状の査読期間は充分ではないとの意見もあった。
- ・アブストラクトを廃止して全文査読だけにすることについては、システム変更を伴うので準備が相当必要となるとの意見があった。
- ・コメントを著者に開示することについては、様々な意見があった。例えば、自動的に開示すると混乱を招くこと、現状では開示を求める意見は強く寄せられていないので開示する必要性は低い、本文作成時に対応を促すために開示するのが良い、2または3点以下の評価のアブストラクトにはコメントを付けて著者に開示する、6名の査読者の点数の分布を知らせることなど。議論の結果、2点の評価についてはコメントを付すことを求めることとなった（著者への開示は今後検討）。

②第二段階査読について

- ・現状では、査読期間が短く、負担が大きいという意見が紹介された。
- ・主査総括上の基本事項の再確認が必要との意見が紹介された（査読意見のまとめだけでなく、最終判定をすること、論文タイトル、著者変更などへの対応、GoogleMapの利用など著作権問題等）。

③査読システムについて

- ・以下の意見が紹介された
- ・執筆要領の見直しが必要（図の配置、謝辞など）。
- ・わかりやすさの改善が必要（登録、確定ボタン、海洋開発との区別）。
- ・報告内容の明示（ひな形）、主査副査の明示（査読者への確認メールも）などが必要。

④出版について

- ・論文の体裁統一について、業者側で対応できることを確認することとなった。

⑤論文辞退者への対応

- ・第1段階通過後の辞退論文に関して報告があった。アブストラクト提出時（応募時）に個々の研究は完成しているはずであるので、第1段階通過後の辞退は極めて遺憾である。当該論文の著者には、辞退に至った理由を文書にて提出させることとする。

⑥その他

- ・判定条件について、3段階のABCをABと合せ、2段階にしてもよいのではないかという意見があった。

3. 論文集編集の検討課題についての審議

①フォーマットの変更

- ・土木学会論文集との統一、上部委員会の要請との報告があった。

②組版（高品位の体裁）維持の是非について

- ・土木学会論文集はCamera-readyである。
 - 1) 組版+電子出版+印刷製本・販売 →経費（350万）はかかるが収入（200万）もある。
 - 2) 組版+電子出版 →体裁は良くカラーも使用できるが組版経費を回収できない。
 - 3) 著者作成pdf+電子出版 →安価（pdf編集にある程度経費は必要）だが体裁の統一が難しい
- ・継続して検討することとなった。

③土木学会論文集B-2（通常号）への投稿促進策

- ・特集号（海岸工学論文集）の原稿の不採択分の投稿を呼びかけ。

④国際セッションの活発化

- ・本年度投稿は18件。昨年と比較して増加傾向。

4. 討議集についての報告（渡部委員兼幹事）

オンライン化に向けて検討中であるとの報告がなされた。

5. 第59回海岸工学講演会の準備状況についての報告（陸田委員兼幹事）

- ・平成24年11月14日～16日
- ・シンポジウム 13日、17日
- ・会場：広島国際会議場、6会場
- ・懇親会：ANAクラウンプラザ広島 会費7000円予定
- ・見学会：①広島湾船上見学、②福山港・鞆の浦見学

6. 第60回海岸工学講演会の開催についての報告（山城委員兼幹事）

- ・会場：九州大学病院キャンパス
- ・日程：2013年11月13～15日
- ・見学会：博多湾クルーズ

7. 第61回海岸工学講演会の開催地についての報告（水谷委員）

名古屋で開催することを検討中であることが報告され、承認された。

8. Coastal Engineering Journal についての報告（水谷 CEJ 編集小委員会小委員長）

- ・ Vol. 54, No. 1, March, 2012 11 編
- ・ Vol. 54, No. 2, June, 2012 4 編
- ・ Vol. 54, No. 2, Sept., 2012 3 編予定
- ・ 現在、26 編の論文投稿あり。例年通りの論文数があると思われる
- ・ CEJ Award について、Board メンバーの投票による第 1 位の論文が本委員会に受賞論文として提案され、承認された。
- ・ 土木学会英文論文集の創刊に際して、土木学会論文集の英文論文投稿に関する方針の変更あったことが報告された。: 英文論文は土木学会論文集 (B2) では受け付けず (編集調整委員会)、英文論文集に掲載する。

9. 研究小委員会等の活動についての報告

① 広報小委員会（森小委員長）

- ・ 沿岸災害データベースのスタート、サーバーの移設
- ・ 今後の方針：研究者、一般の人が利用したいと思える情報集約、ポータルサイトの立ち上げ、運営
- ・ 討議集の WEB 化

② 沿岸域小委員会（重松小委員長）

活動状況に関して口頭で報告があった。

③ 数値波動水槽小委員会（岡安小委員長）

活動状況に関して口頭で報告があった。書籍「数値波動水槽」は 7 月に刊行予定。

④ 地球温暖化適応策検討小委員会（横木小委員長）

活動状況に関して口頭で報告があった。

⑤ 地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会（藤間副小委員長）

委員会設置期間の延長願が出され承認され、承認された。

10. 第 48 回水工学に関する夏期研修会（B コース）開催についての報告（渡部委員兼幹事）

- ・ 2012 年 8 月 27 日 28 日、開催
- ・ プログラムの紹介
- ・ 第 49 回水工学に関する夏期研修会開催地：水谷委員より名古屋での開催が提案され、承認された。
名工大を候補地として予定、担当は北野委員兼幹事。

次回の海岸工学委員会は、海講開催中の 11 月 14 日（水）18 時より

記録（上月）